



みんなでなりたい自分になるための対話の役割

先日（随分前になりましたが）、髪を切りました。するとどうでしょう。朝からたくさん子どもたちが、かわるがわる声をかけてくれました。

「先生、髪切ったね」「いい感じです！もちろん、切る前もよかったけれど…」・・・

朝から、学校に来てよかったなあ、子どもたちが言ってくれる言葉をしみじみとかみしめていました。特に、最後のお子さん。ありがとう、気を使ってくれたね。

子どもたちの、このしなやかな声掛けには本当に驚かされます。・・・・・・・・・・・・・・・・

「みんなで、なりたい自分になる」ことを目標に、令和5年度の三か月が過ぎようとしています。今日は、特に「みんなで」に着目してみたいと思います。

前提として、なりたい自分になるためには、自分一人ではできません。仲間の協力が不可欠。ただ、その仲間一人ひとりも“共に”なりたい自分を成し遂げる共同体の一員。脇役が一人もいない全員が、それぞれの物語の主人公ですね。だから、起こるトラブル…

全員が自分だけの道しか見えなかったら、そりゃ起きますよね。トラブル。

では、トラブルはいけないことなのか？決してそうではありません。トラブルを共同体全体で解決した暁には、間違えなくよりよい未来がまっています。私たち大人は特に知っている、経験済みです。このトラブルを解決する唯一の方法が、対話ですね。対話を通して、わたしの「なりたい自分」のみならず、あなたの「なりたい自分」が見える、見えてくるのが大切なのです。そんな対話だからこそ、前提となるお作法がいくつかありそうです。

一つ目が、他者への興味をもつこと。最初に述べた子どもたちみたいに、友達に起きた（起きている）変化への興味をもち、かかわりを求めるといこと。そして、相手の身になって聴くということ。興味をもち、友達の変化に寄り添う場合、どうしても自分の経験からしか解釈できない場合が多いものです。当然。そして、その解釈はよく間違えます。人と人は分かり合えないことを前提にコミュニケーションをとるべきです。だから、お尋ねをする。あなたとわたしの間でしか通じない「ねえねえ、どうしたの？」という感じ。

二つ目が、あなたとわたしの主張のどちらか一方しか解決方法がないと思わないこと。新しい第三の解決方法を見つけ出そうとすること。

そして最後の三つ目が、対話の目的をそらさないこと、です。よく、自分の気持ちや趣味だけで意見を主張しようとする場合がありますが、気持ちや趣味を根拠にした場合は、同じ気持ちや趣味にならない限り合意はできません。一番大切な最上位の目標を互いに尊重しながら、だったら今回は自分の意見を変える必要があるぞ、という柔軟な受け止めができれば第三の解決方法を創ることはできないでしょう。

こりゃ、お作法を身につけるためには練習が必要だな。いろんな場面で、そして学校全体で対話に、そして対話のお作法の習得に取り組んでいきたいと思っています。